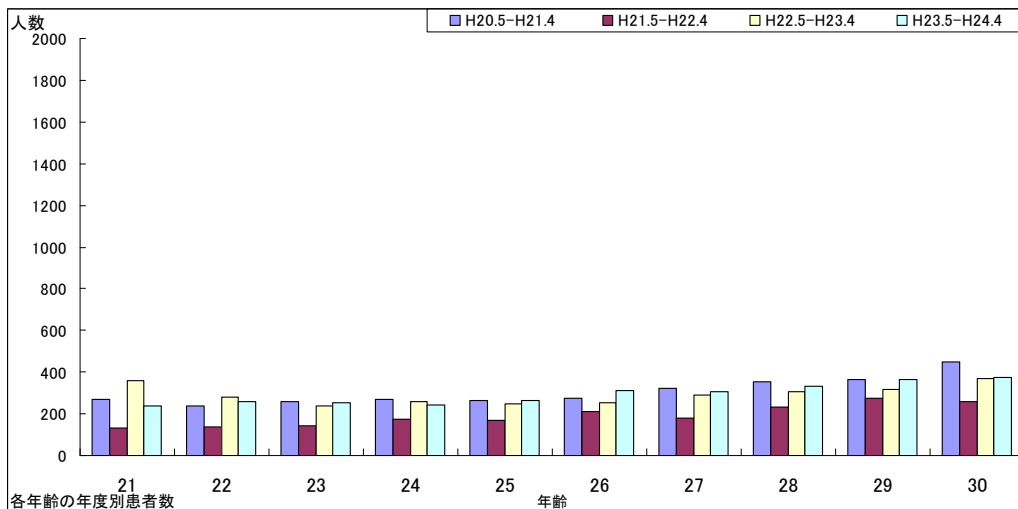
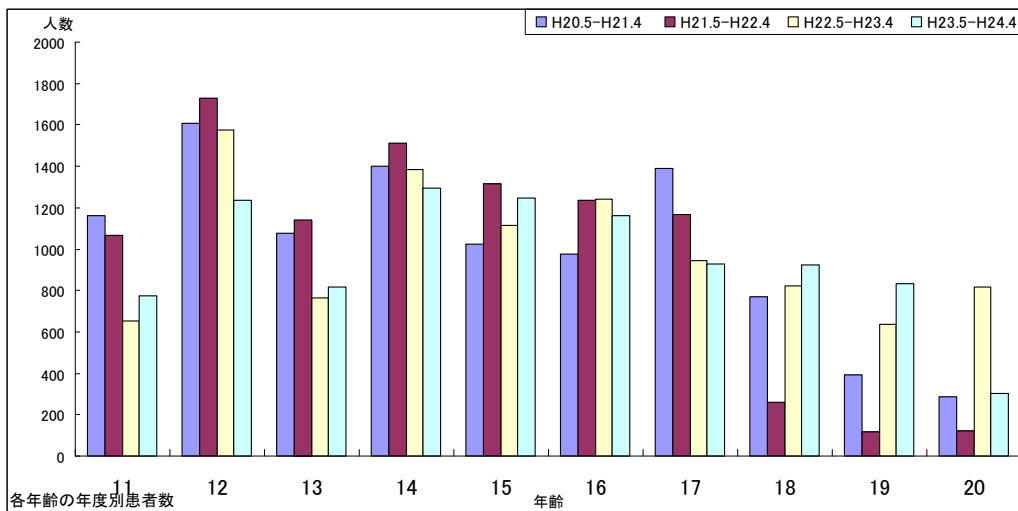
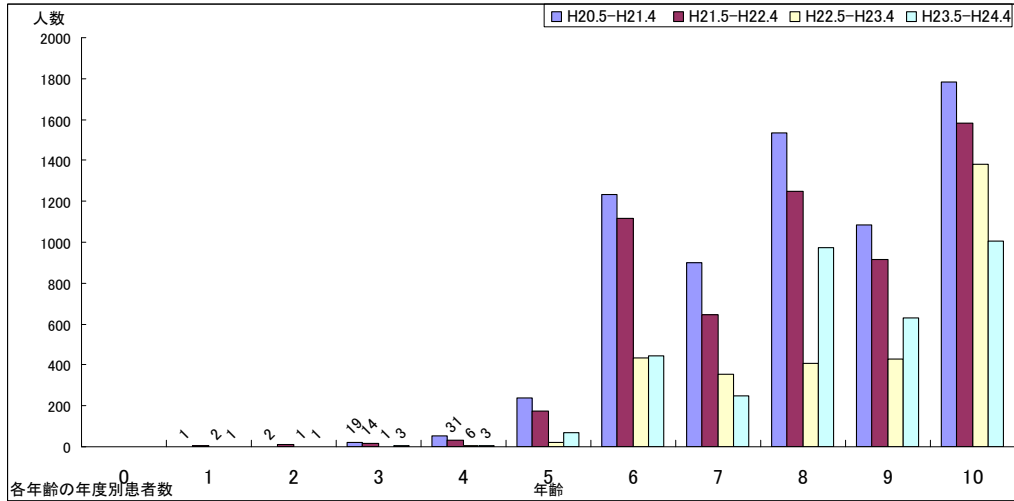


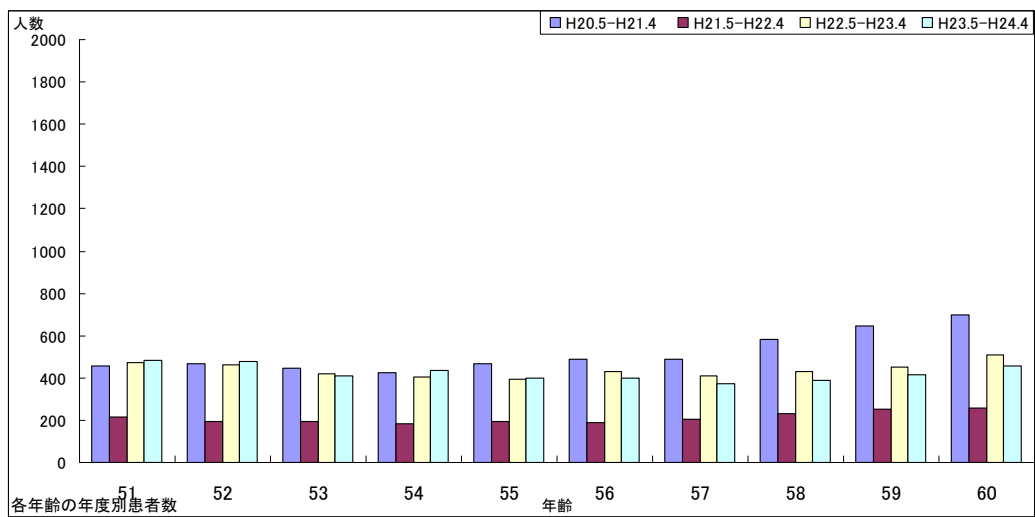
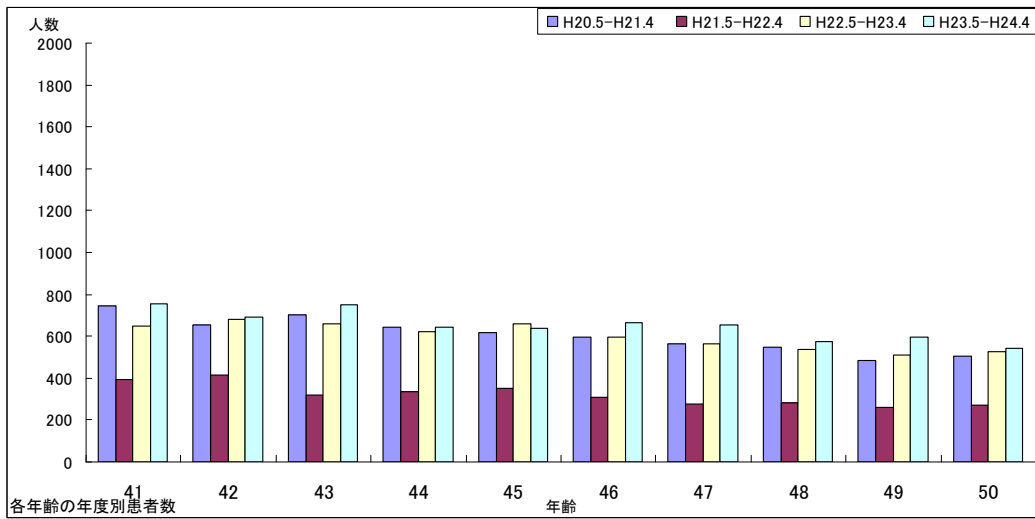
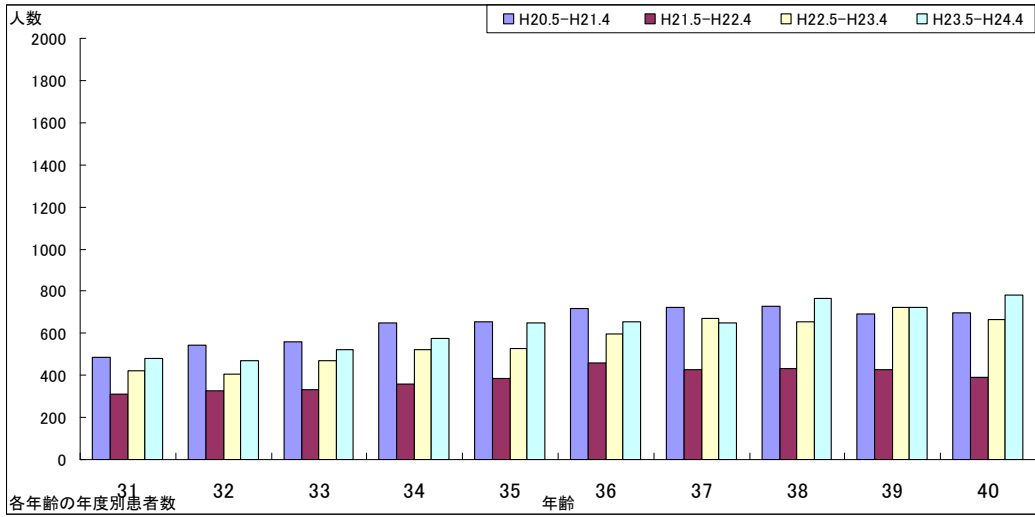
主治医診療報告書及びアンケートの解析 4年間の推移

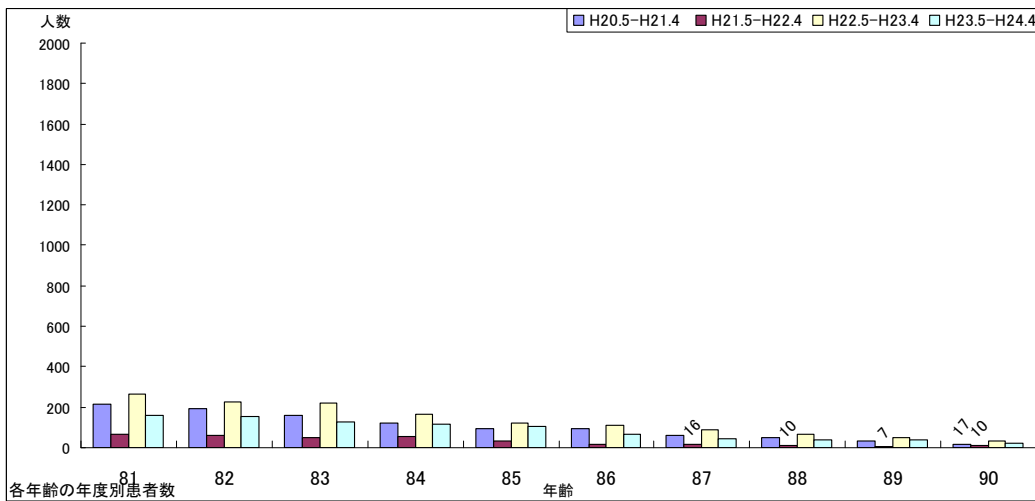
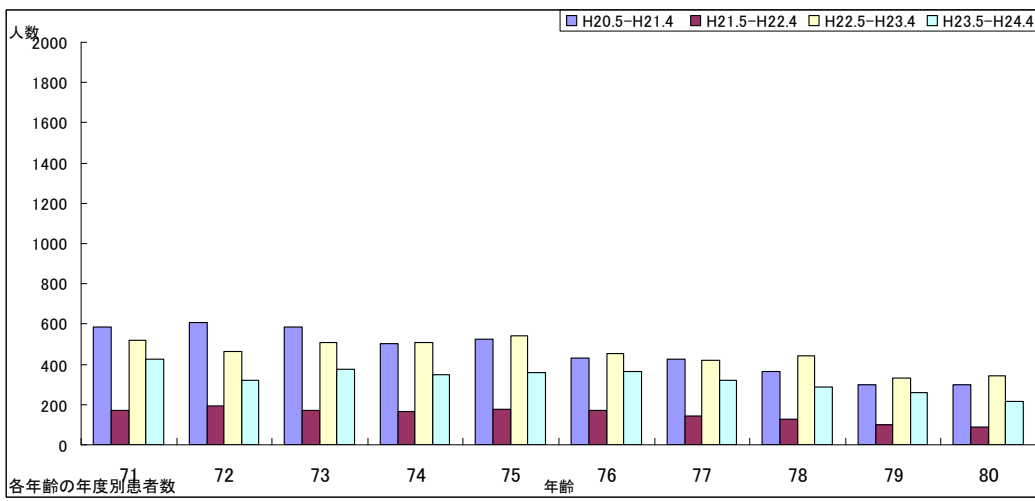
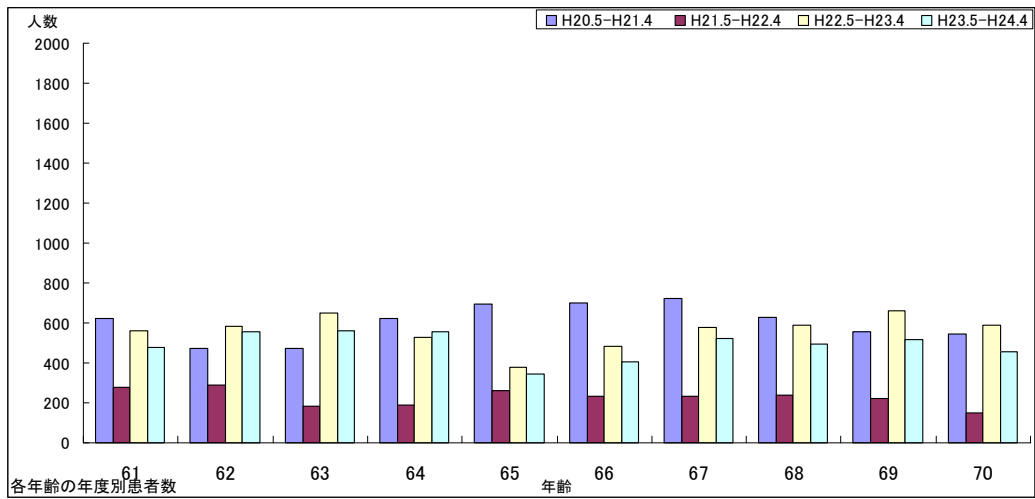
平成 20 年度から平成 23 年度の 4 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

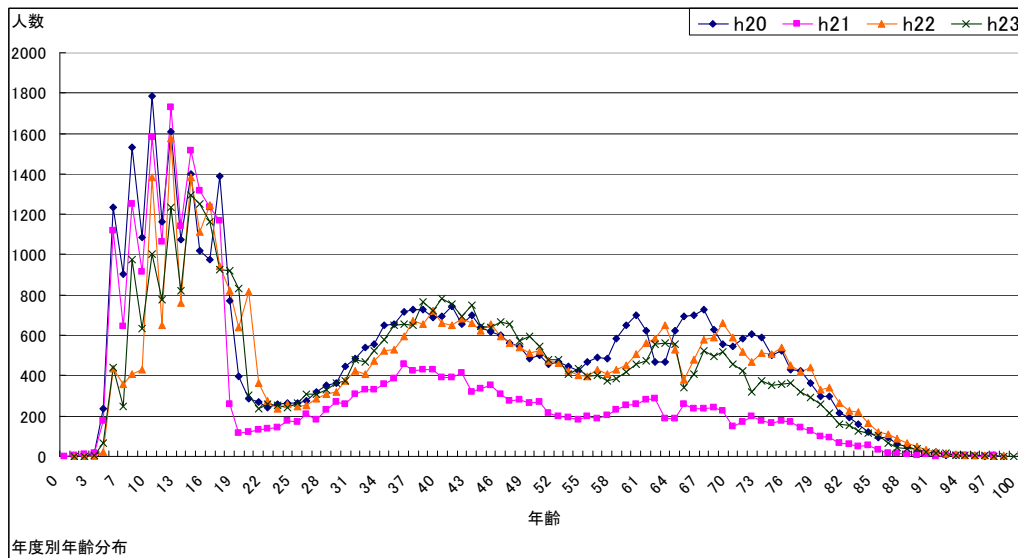
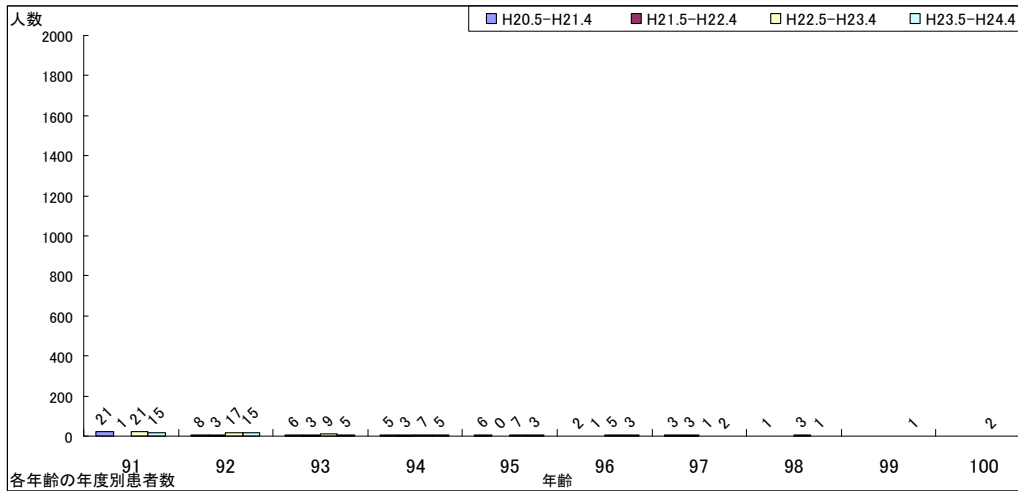
1 年齢分布

(1) 各年齢の年度別患者数







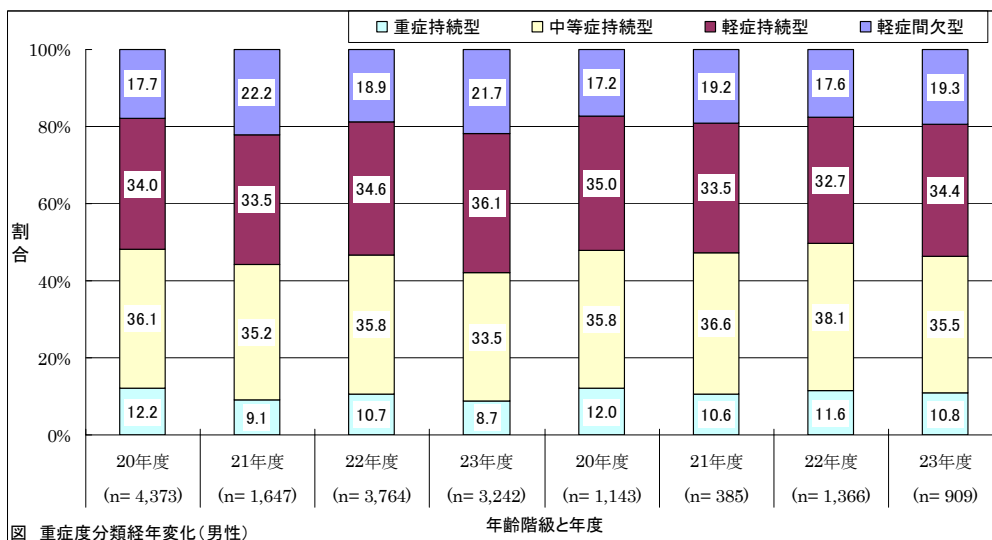
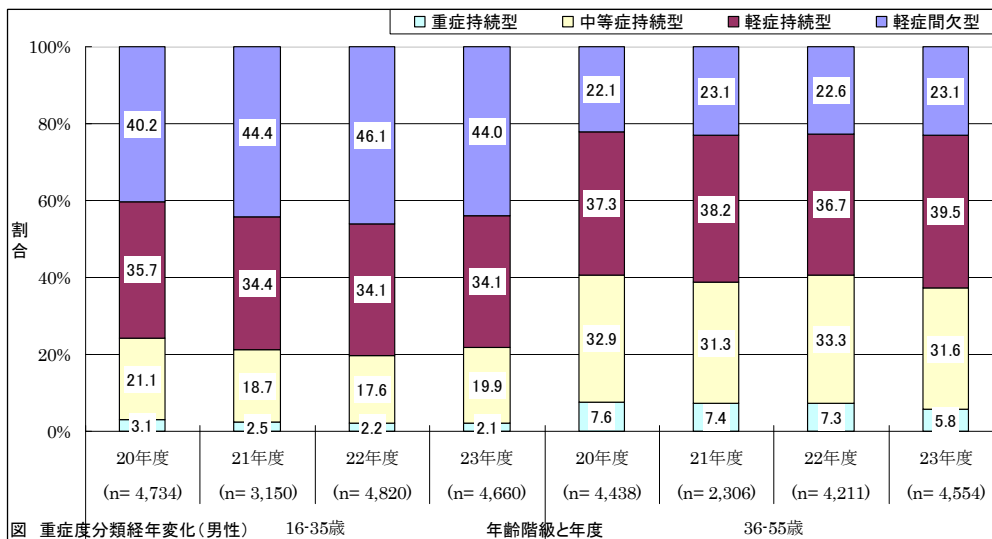
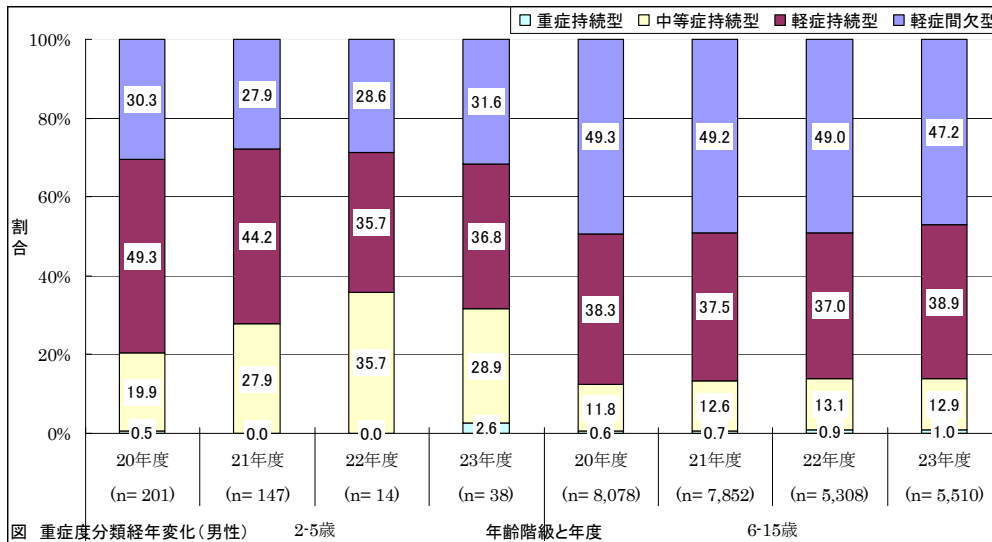


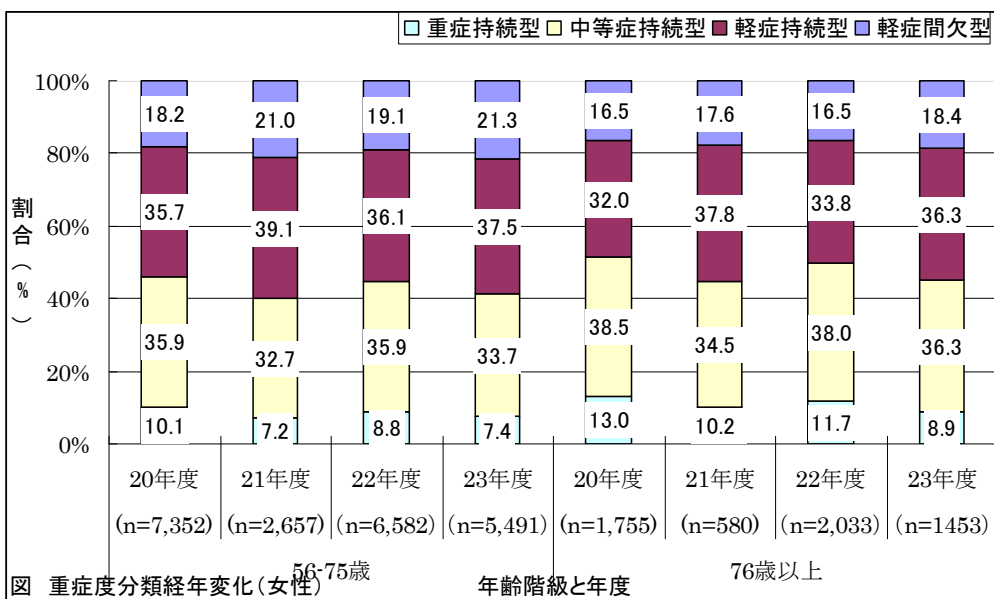
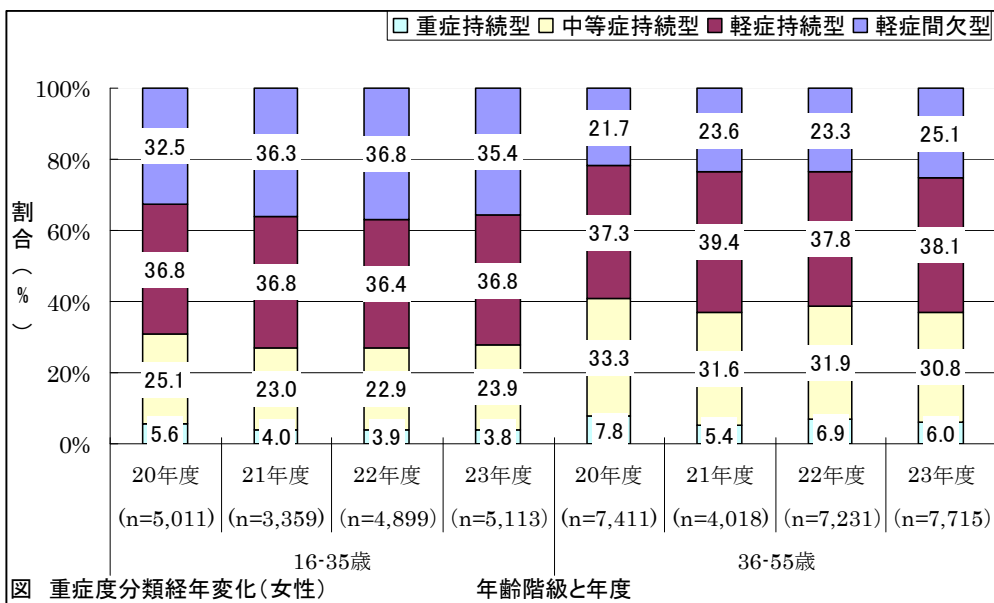
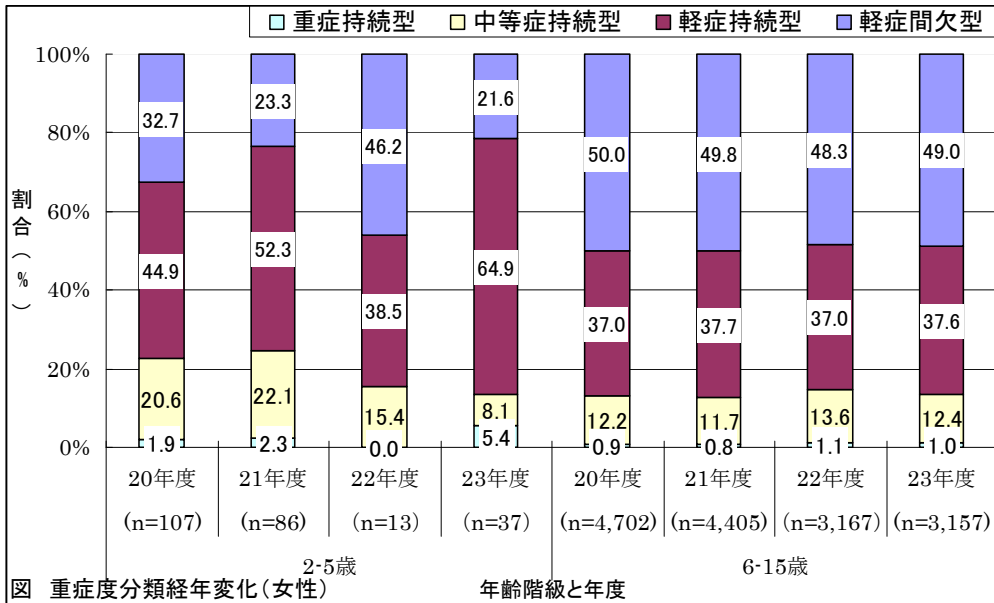
(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0-1歳	1	0.0%	6	0.0%	2	0.0%	1	0.0%
2-5歳	308	0.6%	233	0.8%	29	0.1%	75	0.2%
6-15歳	12801	25.9%	12278	40.1%	8493	19.5%	8675	20.7%
16-35歳	9763	19.8%	6524	21.3%	9738	22.4%	9789	23.3%
36-55歳	11874	24.0%	6334	20.7%	11475	26.4%	12284	29.3%
56-75歳	11749	23.8%	4310	14.1%	10377	23.8%	8748	20.9%
76歳以上	2903	5.9%	967	3.2%	3405	7.8%	2370	5.7%
総計	49399		30652		43519		41942	

15歳以下の小児の割合は減少傾向である。
一方で、36-55歳の割合が増加している。

2 重症度分類





年度別年齢階級別の重症度分布について、男女とも特に重症度分類の経年変化を認めなかった。

3 喫煙

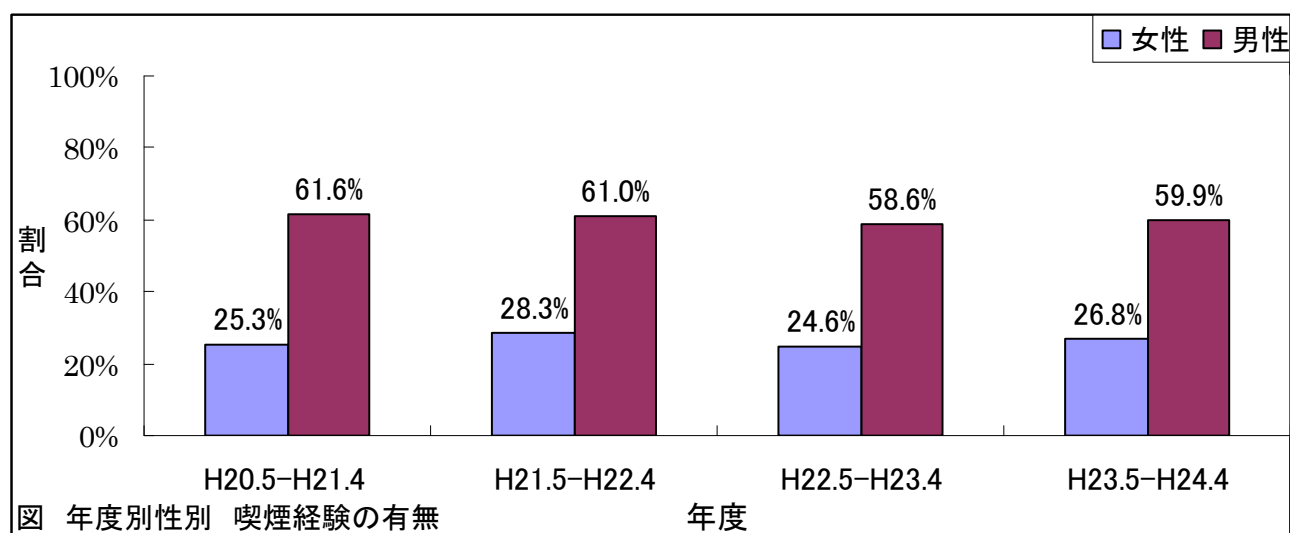
(1) 能動喫煙

a 全体

	H20.5-H21.4	H21.5-H22.4	H22.5-H23.4	H23.5-H24.4
喫煙経験あり	39.1%	40.6%	37.5%	39.2%

能動喫煙の割合は、4年間で特に変化を認めない。

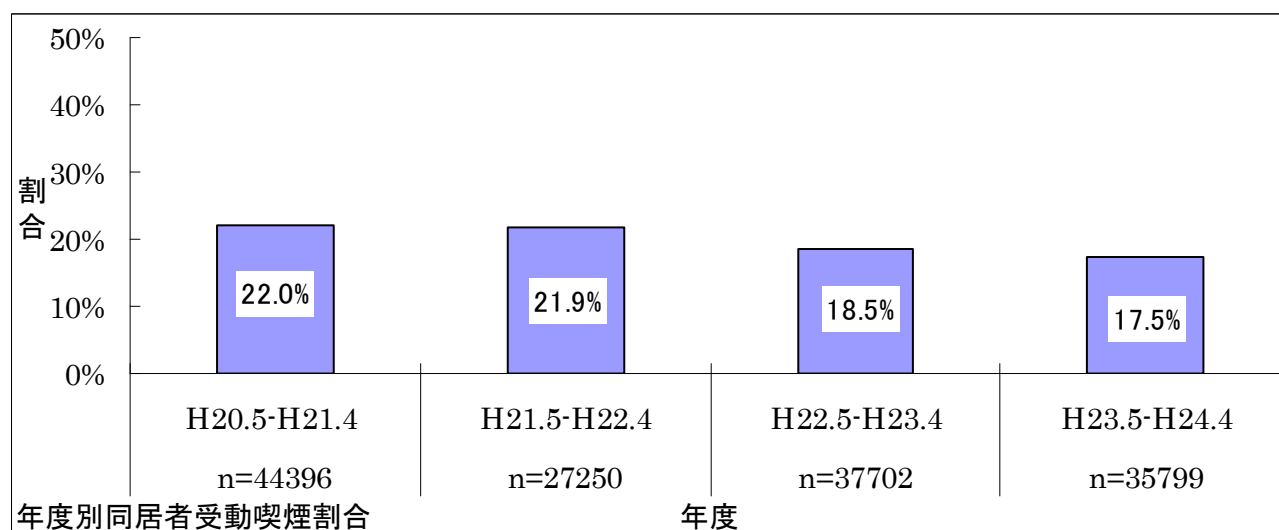
b 男女別



男女別に見た能動喫煙の状況は、この4年間で変化がなかった。

(2) 受動喫煙

a 同居者の受動喫煙



受動喫煙割合はわずかに減少している。

b 職場の受動喫煙

H20.5-H21.4	H21.5-H22.4	H22.5-H23.4	H23.5-H24.4
14.1%	11.1%	13.7%	12.7%

経年変化を認めない。

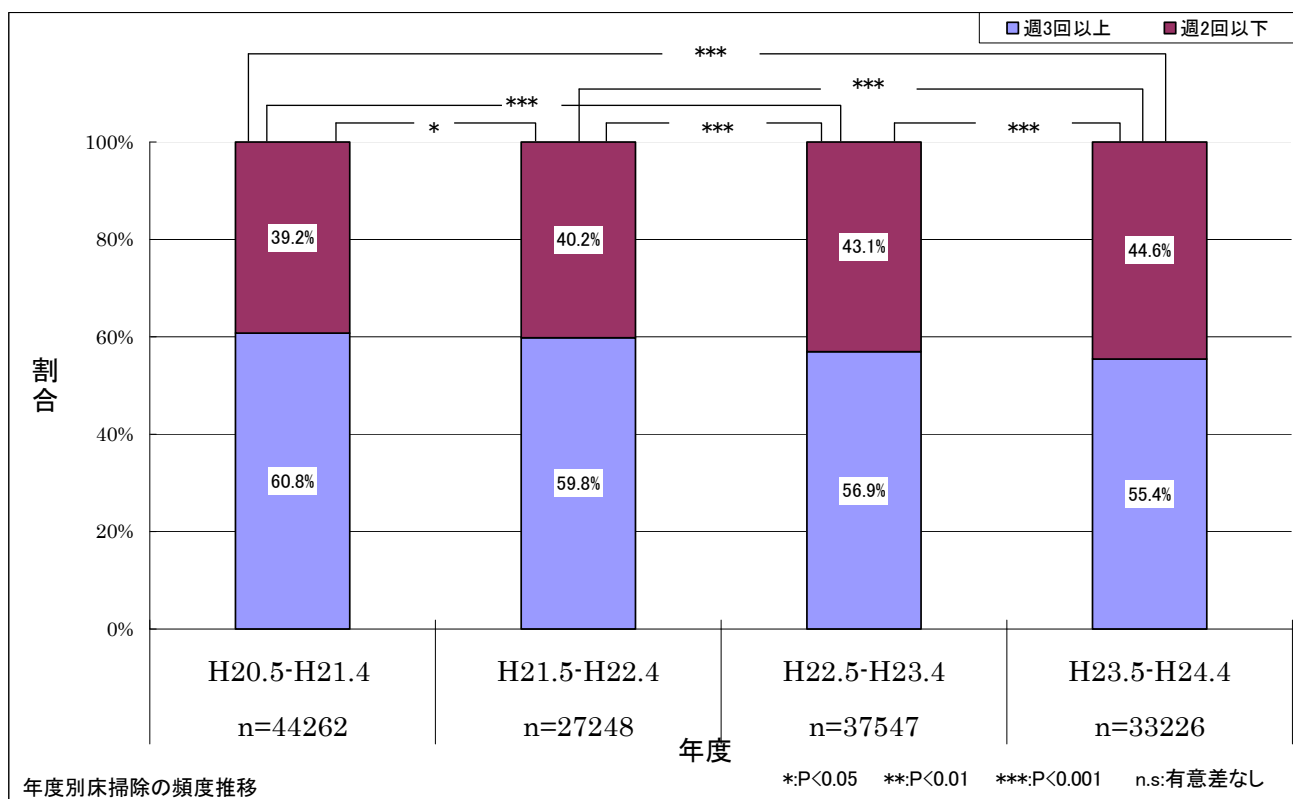
4 環境整備

(1) 床じゅうたん使用割合

H20.5-H21.4	H21.5-H22.4	H22.5-H23.4	H23.5-H24.4
34.8%	34.0%	36.4%	36.0%

ダニの増殖を避けるために、じゅうたんを使用しないことが望ましいとされているが、じゅうたんの使用割合は、この4年間で大きな変化はなかった。

(2) 部屋の掃除を行う頻度



年度を経るごとに、週3回以上部屋の掃除を行う者の割合が減っている。

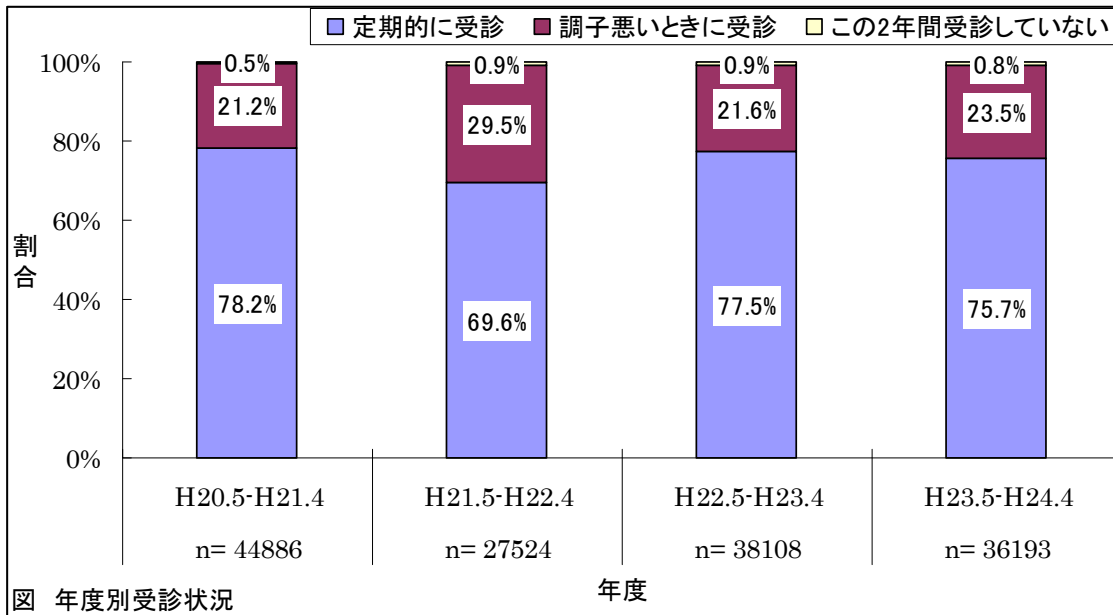
(3) 布団に定期的に掃除機をかけているか

H20.5-H21.4	H21.5-H22.4	H22.5-H23.4	H23.5-H24.4
45.3%	46.9%	45.8%	45.8%

定期的に布団に掃除機をかける頻度は、この4年間で特に変化はない。

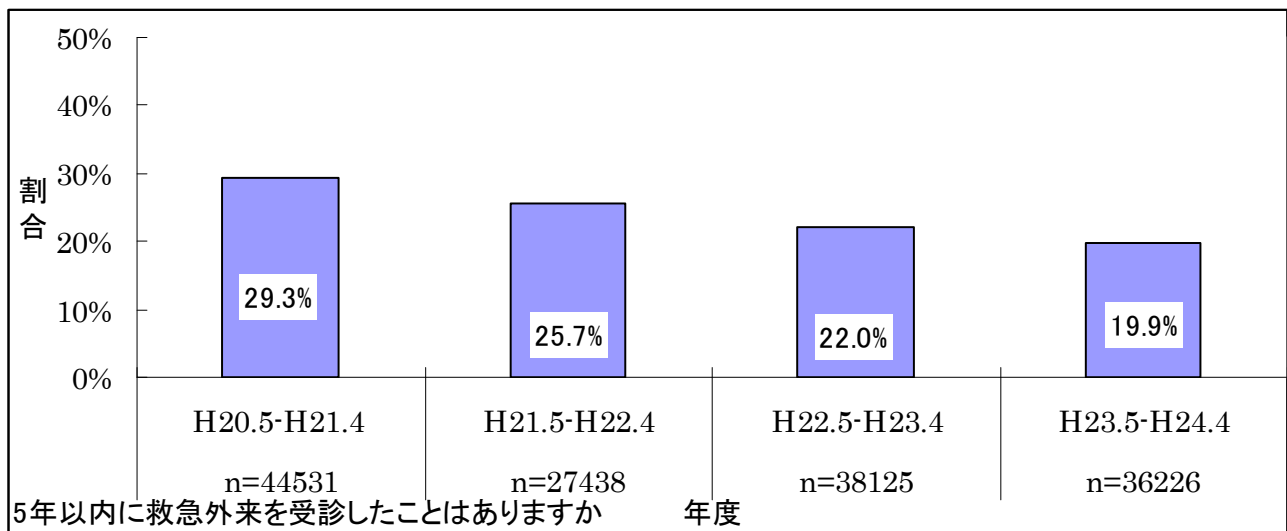
この4年間のデータから、環境整備の改善は特に認められず、今後も更なる普及啓発が必要と考える。

5 受診状況



各年度における定期的に受診をしている者の割合は、ばらつきがある。

6 救急外来受診状況



救急外来受診の割合は、この4年間で減少している。

7 治療薬

(1) 吸入ステロイド薬

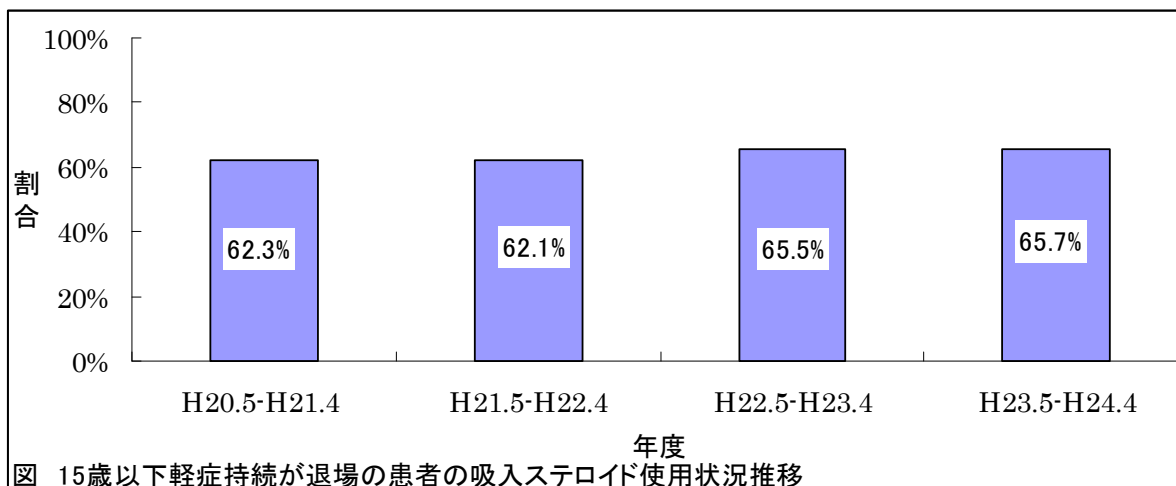


図 15歳以下軽症持続が退場の患者の吸入ステロイド使用状況推移

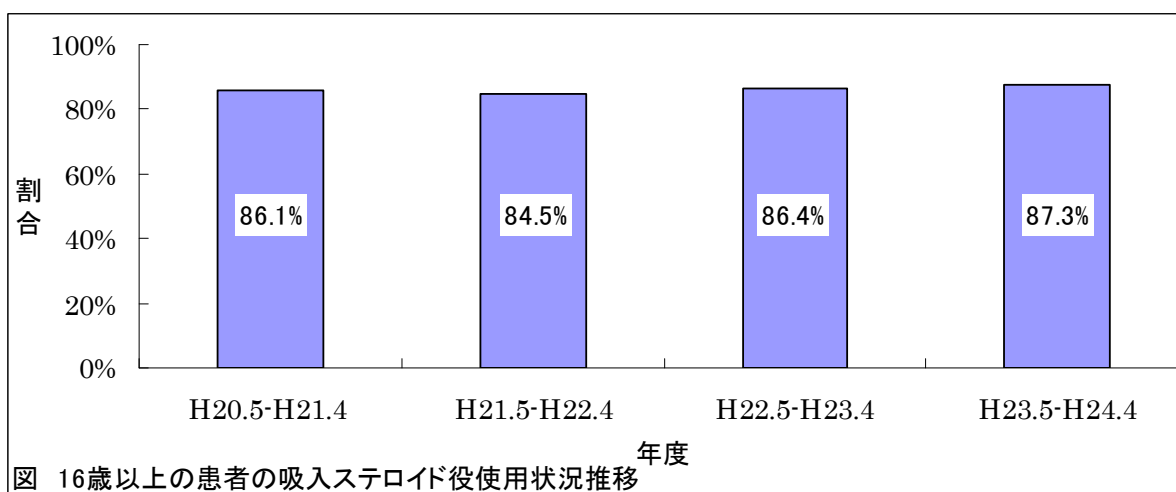


図 16歳以上の患者の吸入ステロイド使用状況推移

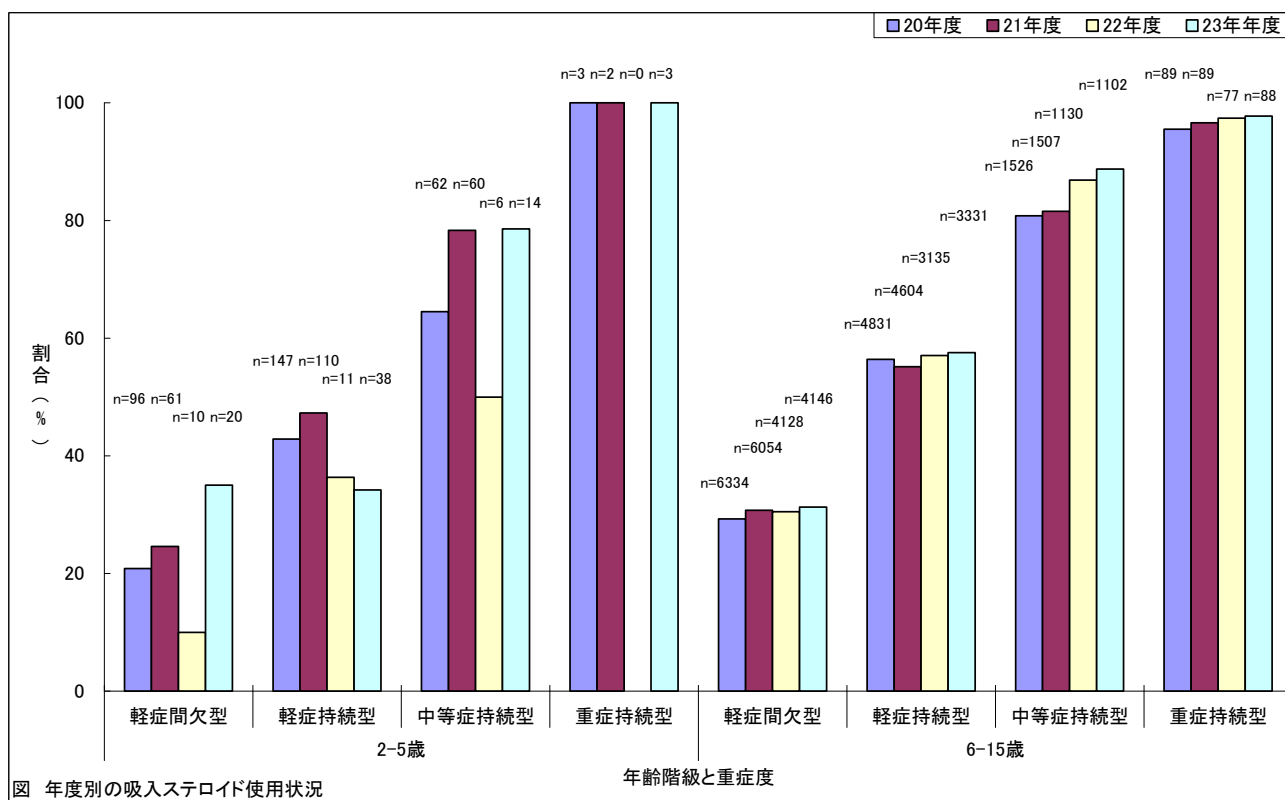
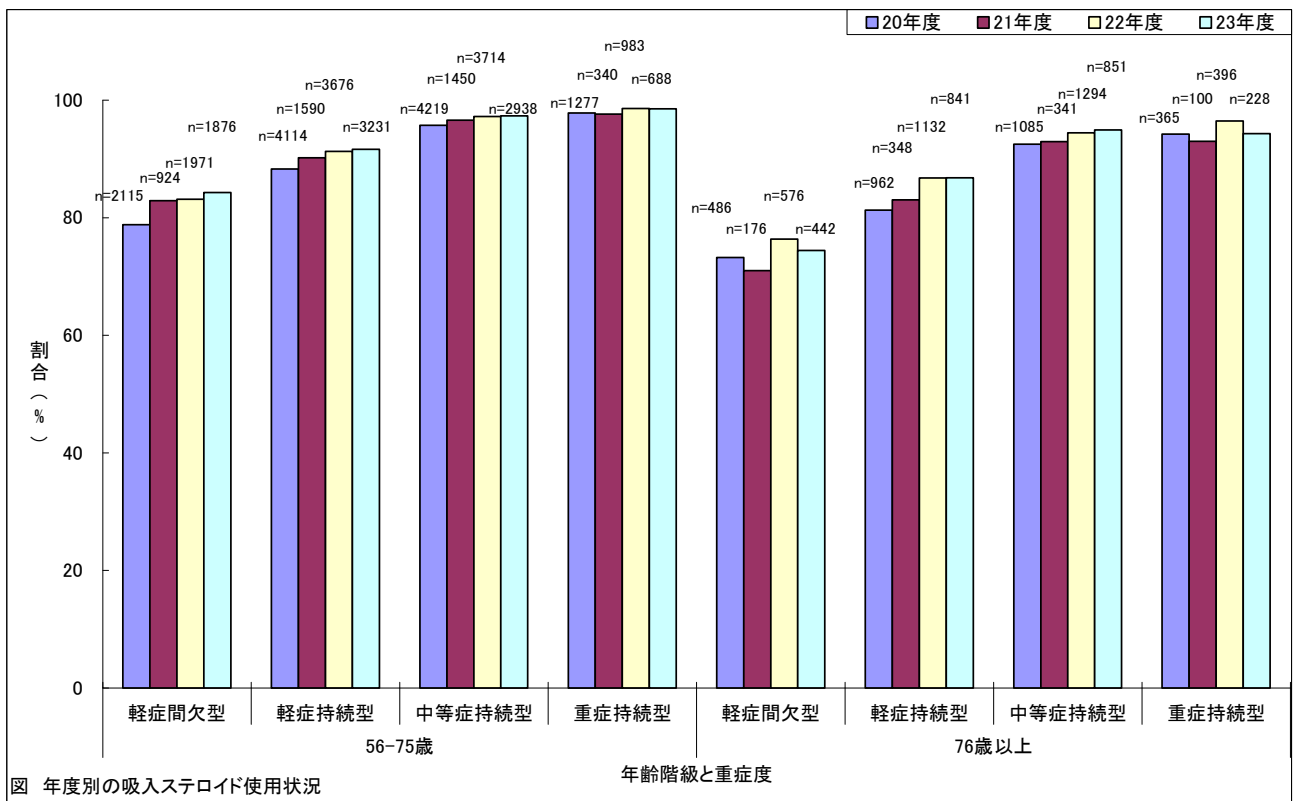
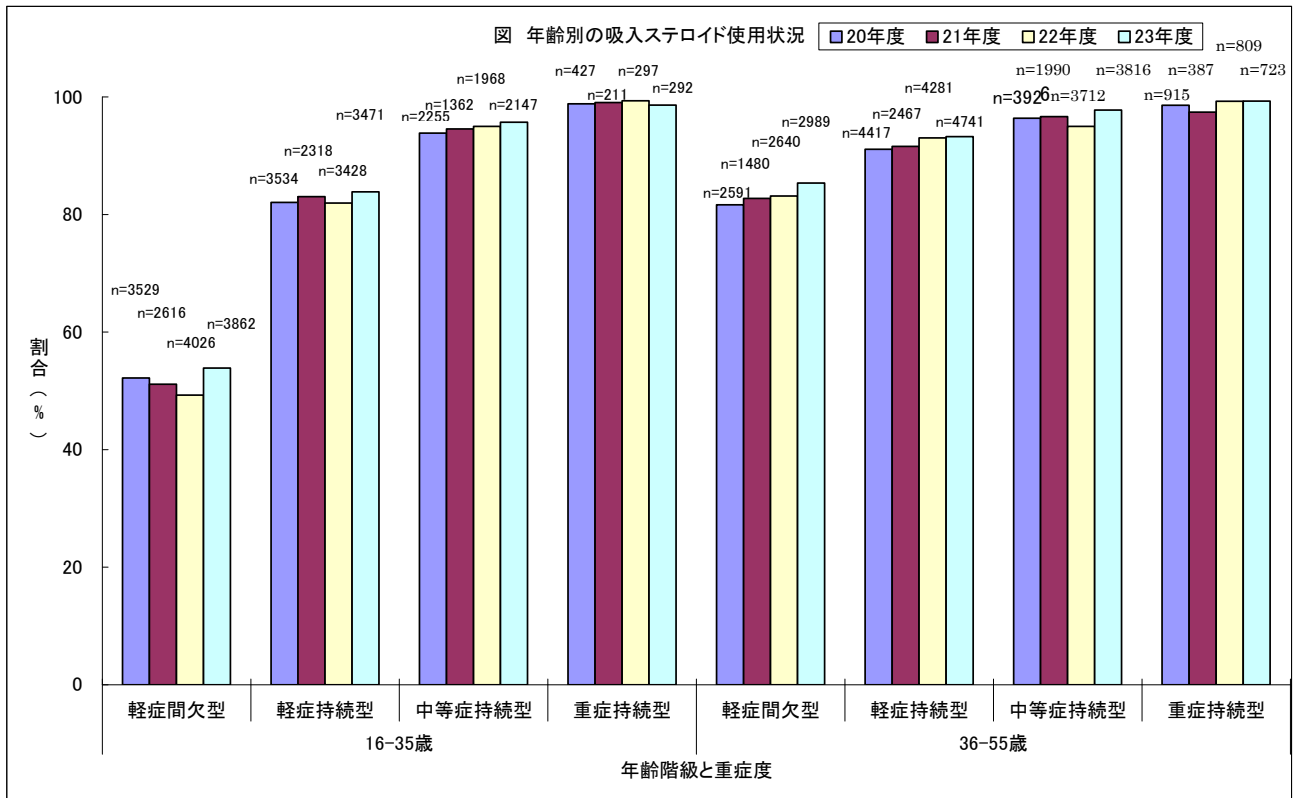


図 年度別の吸入ステロイド使用状況



吸入ステロイド使用割合は小児、成人とも、年々高くなっている。

(2) ロイコトリエン受容体拮抗薬

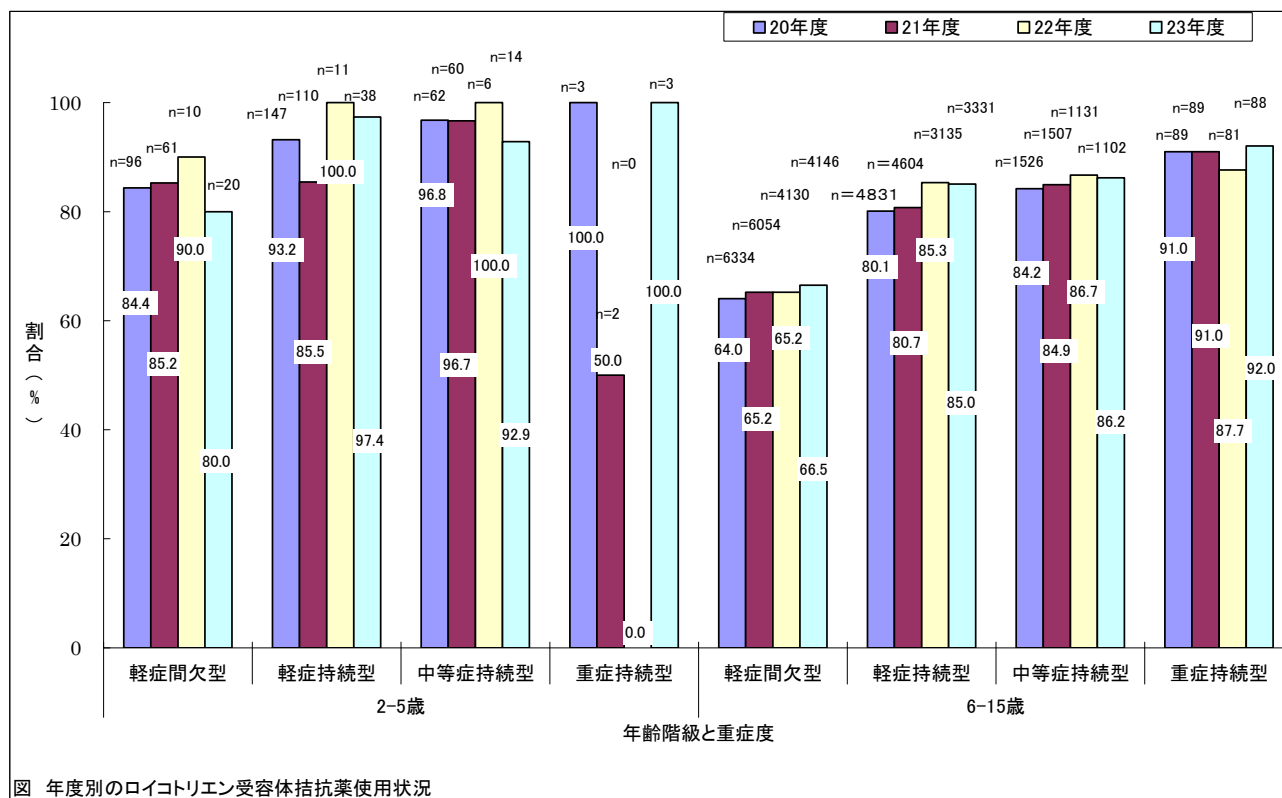


図 年度別のロイコトリエン受容体拮抗薬使用状況

(3) β_2 刺激薬 単独での処方

16歳以上

	軽症間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型	全体
H20.5-H21.4	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%
H21.5-H22.4	0.9%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
H22.5-H23.4	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%
H23.5-H24.4	0.7%	0.2%	0.1%	0.0%	0.3%

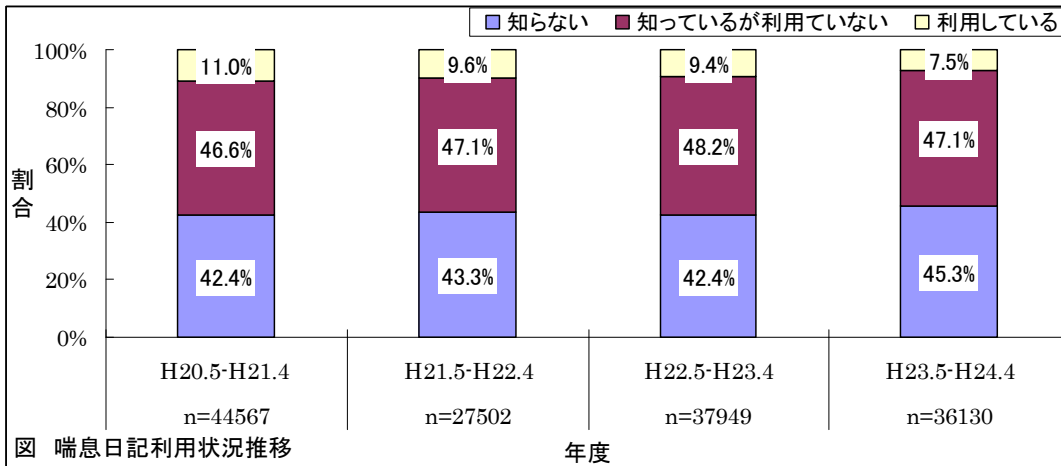
15歳以下

	軽症間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型	全体
H20.5-H21.4	1.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.6%
H21.5-H22.4	1.0%	0.2%	0.1%	1.1%	0.6%
H22.5-H23.4	0.7%	0.1%	0.1%	0.0%	0.4%
H23.5-H24.4	0.8%	0.1%	0.1%	0.0%	0.4%

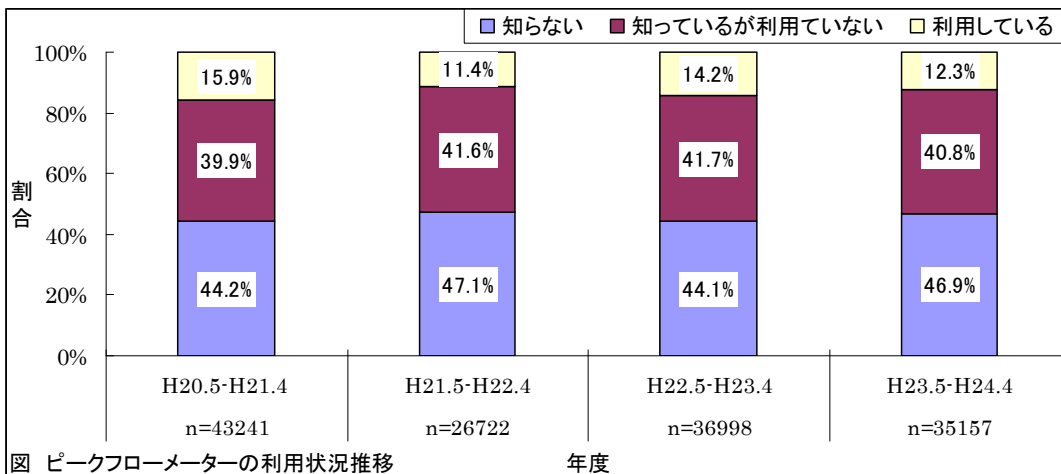
救急外来受診割合、吸入ステロイド薬の使用状況等治療薬のデータから、ガイドラインに則った治療の普及がうかがえる。

8 コントロール状況の評価について

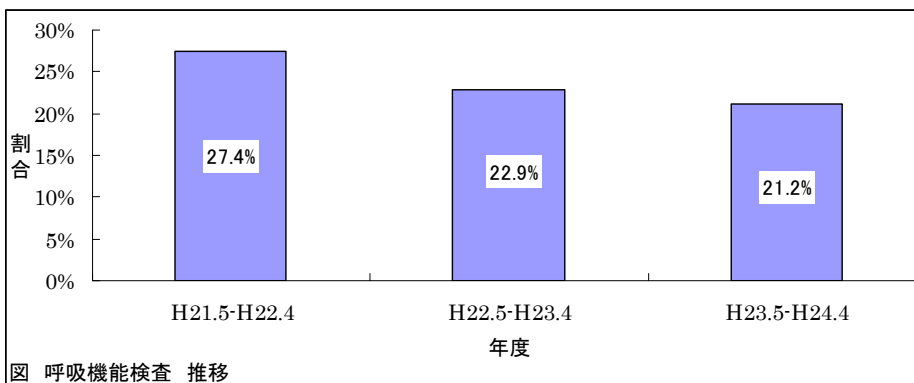
(1) 喘息日記の使用状況



(2) ピークフローメータの利用状況



(3) 呼吸機能検査実施率推移



自己管理ツールの普及状況は横ばいである。呼吸機能検査実施率は、年々低下傾向である。今後も喘息の状態を把握することの重要性を普及啓発する必要がある。